

<p>PSB (Process Safety Beacon) 2010年10月号 の内容に対応</p>	<p>SCE・Netの <b>安全談話室</b> (No.52) <a href="http://www.sce-net.jp/anzen.html">http://www.sce-net.jp/anzen.html</a></p>	<p>化学工学会 SCE・Net 安全研究会作成 (編集担当: 齋藤)</p>
-----------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------

今月のテーマ: 危険性物質の貯蔵と出荷

(PSB 翻訳担当: 小林浩之、齋藤興司、小谷卓也(纏め))

- 司会: 今月のテーマは危険性物質の貯蔵と出荷に関するもので、現場で身近に経験してきたポピュラーな内容ですが、なにかコメントがありましたらお願いします。
- 小林: 内容は作業の方法が主ですが、いくつか抜けている点がありますね。温度とか環境などには触れられていません。温度上からこの場所はダメだとか、許可が必要な場合もあります。決められた場所に貯蔵することなども重要です。
- 山岡: 貯蔵や移動の際にコンタミで爆発した事例もけっこうありますね。安全確保のためには作業方法だけでなく、物質の物性や混合時の反応性を知っておくことが大事です。“あなたにできること”には取扱う物質の反応性の教育も必要です。
- 長安: その点については MSDS が役に立ちます。
- 山岡: PRTR も取扱う物質を知る意味で役に立っていますね。
- 牛山: 危険物の貯蔵については危険物に関する法律にいろいろ書いてあります。大概の物質はそこに書かれている対応でいいのですが、危ないのはコンタミですね。触媒の残りとか。
- 山岡: 洗浄が不十分な場合も問題を起こしますので、前荷をチェックし十分洗浄することがだいじです。
- 牛山: そうですね。輸入品のコンタミで苦労したことがあります。
- 渡辺: 私も原料のコンタミで反応が停止した経験があります。原因は船の前荷にあり、洗浄が不十分だったことに拠ります。この時は原因調査などで結局 1ヶ月も反応を止めざるをえませんでした。
- 牛山: 積荷に海水が入って問題になったことがあります。
- 渡辺: 充填容器の検査のことが指摘されていますが、充填前に細かく検査するのは実際にはなかなかむずかしいですね。立会いはしますけれども。
- 小林: 目視点検ぐらいはするけれどもそれ以上細かくはできませんね。定期点検をしっかりやっておけばそう問題はないのではないのでしょうか。点検を全くやらないというのは問題です。
- 長安: 容器の中身をきちんと表示しなさい、と書かれていますがこれは大切です。以前研究所にいた時、廃棄物の容器に誰が何を入れたのか、何時まで保管するのか全く表示がなくその処理に困った経験があります。
- 齋藤: 中国の工場に着任して少し経った頃、品管のラボで廃液ビンが破裂した事故がありました。当時はなにかも同じ廃液ビンに捨てていましたが、原因を調べたところ過酸化水素水があとから捨てられたアルカリと反応して分解し発生した酸素でビンが破裂したものと推定されました。廃液では表示と分別が重要です。
- 小林: 過酸化物は怖いですよ。
- 話は変わりますが、ポンベの保管も注意が必要です。小さい工場ではすだれをかける程度の対策しかとっていないところもけっこうあります。アセチレンポンベなどですだれが外れているのもよく見ますね。
- 渡辺: 定修の時、抜き出した重合廃棄物がオープンドラムで燃えたことがあります。また、油のついたウェスが燃えたこともあります。こういう類の廃棄物は現場に言ってもなかなかすぐには処分しないので注意が必要です。重合が既に停止したと判断した廃棄物を入れたドラムが 3 日後に膨らんだという経験もあります。廃棄物の保管は要注意ですね。
- 牛山: 原料の残品などを定修などで長期間放置するのも注意が必要です。
- 中村: 工場ではどのような廃棄物が出るかはわかっているの上で処理しているのですか。
- 牛山: PRTR などの法で規制されているものはきちんと把握しています。
- 長安: PRTR 該当物質はそうしていますね。
- 渡辺: そうでない廃棄物も最近は書類で管理することが求められていますからきちんと処理されていると思います。業者に出すにしてもマニフェストを付けますから。
- 中村: 業者はその廃棄物は危ないものだという意識はあるのでしょうか。

山岡：例えば塔内の重合物や残渣などの廃棄物は危ないですね。

渡辺：危険性があるとわかっている特定の廃棄物は、いつも処理に出している決まった業者に依頼するのがどの会社でも普通ではないでしょうか。

牛山：書類といえば、アメリカに送ったある物質が行方不明になったことがあります。MSDS などの取扱を記した書類が添付されていなかったため、港の倉庫に留め置かれたままにされていたのです。責任は送り手側にあるということでしょう。

長安：全く連絡がないというのも困りますね。

牛山：業者の言い分は、書き物がないからハンドリングできない、ということです。書類はやはり大事です。

小谷：そこでもしドカンといたらどうなりますか。

渡辺：それはやはり送り手の責任でしょう。

司会：本日はいろいろな経験事例が出されました。現場では、PSB の“あなたにできること”の各項に加えてこれらの事例も参考にさせていただけたら、と思います。本日は熱心にご議論いただきありがとうございました。

【談話室メンバー】

日置 敬、井内謙輔、小林浩之、加治久継、小谷卓也、溝口忠一、長安敏夫、  
中村喜久男、齋藤興司、澁谷 徹、牛山 啓、渡辺紘一、山崎 博、山岡龍介